

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000106		
法人名	社会福祉法人光栄会		
事業所名	グループホーム りんごの里		
所在地	熊本県葦北郡津奈木町小津奈木2120-62		
自己評価作成日	令和3年 1月 29日	評価結果市町村報告日	令和 3年 4月 6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和3年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりが自分のペースでゆったりと安心した生活が送れるよう、要望を聴きながら支援を行っています。趣味活動、散歩、園芸などを自己決定にて行える環境作りは継続し、季節毎の活動、施設全体での行事、特別養護老人ホームとの合同の活動を通し楽しみや喜びを感じ、なじみの方との交流を深める機会を作っています。一人ひとりの性格、生活習慣を尊重しながら能力を見極め自立支援に努めています。また、不安や心配事がある時は向き合い、思いを受け止め軽減できるよう対応し、心身共に元気に生活を送って頂くよう支援しています。施設内に認知症対応型通所介護、特別養護老人ホームを併設している為スムーズな移行ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年となり、落ち着いた生活の様子が見えました。入居者ケアにあたっては、それぞれの一日の流れで考えられるリスクを洗い出す「危険予知トレーニング」も行われ、入居者の日々の生活だけでなく、介護計画作成にも職員間で話し合いを持ち、担当制でありながらも事業所全体で臨むケアが窺えました。従来、併設する特養やデイサービス利用者との交流も見られ、地域との関わりの継続もされています。入居者の日々の生活では編み物や書き物を楽しむ様子もあり、作品を展示したりと、思い思いに過ごす姿が見られます。今年度は感染症予防の面から事業所で過ごす時間も増えましたが、「お店やさん」を定期的に開催したり、行事を充実させたりと日々の生活を楽しむ工夫が見られました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰の目にも触れるよう理念を掲示し、月1回のミーティングの始まりに読み上げ意識付けを行っている。年間目標は理念を踏まえた項目を掲げ、達成できるよう努め評価をしている。	職員入職時には管理者より理念についての説明を伝えている。職員会議では各自、事業所目標・ケア目標に対する反省を書面に残し、次年度のケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為ほとんど実践できなかったが、保育園の慰問があり外で太鼓の演奏を行ってもらった。	例年、隣接する特養での行事や地域行事を機会に地域との交流を行っているが、今年度は感染症予防の面から難しい状況であった。予防に配慮しながら、事業所敷地内を利用した保育園児の太鼓披露を楽しむ機会を持った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年参加している認知症カフェも新型コロナウイルス感染拡大防止の為ほとんど中止となった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催であるが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為書面を郵送し、意見を伺うようにしている。	今年度は書面による事業所活動の報告を行った。報告時には「評価・要望・助言等の記載のお願い」を同封し、事業所の取り組みについての意見を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険や福祉の関連での連携会議等へも参加し、協力関係は保っている。	今年度は例年の報告・連絡・相談等に加え、感染症予防の面での連絡・確認の機会も多かった。例年、町では認知症カフェが開催されており、事業所の状況を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修にて身体拘束が与える影響について学習し意識を高めている。玄関の施錠は他事業所と共同でもある為現在は施錠している。状況に応じて開放するよう検討していく。	隣接する事業所職員と合同で研修会を行い、身体拘束、アンダーマネジメント、不適切なケア等について職員間で学び・共有している。法人では職員のストレスチェックも行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で学習し、また虐待の芽チェックシートを活用しながら日頃から気を付け対応するように努めている。		

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年度より年に1回施設内研修を実施している。理解できるよう今後も継続的に学ぶ必要がある。施設内の生活相談員に相談できる環境を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要書類について契約時に十分な説明を行っている。質問や問い合わせには随時対応し理解、納得して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回満足度調査のアンケートを実施している。コロナ禍での面会制限により直接話を聴く機会が減り、意見箱も活用できていない為、代替を検討する必要がある。	毎年家族に対し満足度調査アンケートを実施している。今年度は感染症予防により直接の家族面会は制限せざるを得なかったが、リモートの利用、毎月の家族への状況報告、電話連絡の回数を増やす等で家族との関わりを行った。	入居者と家族の関わり継続のための支援に工夫されている様子が窺えました。このような時期であるからこそ、家族から意見を得る機会を作る工夫に期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットミーティングでの意見をリーダー会議や運営会議に反映させる機会を設けている。加えて管理者による年に1回の面談を実施、入居者の生活を改善する為の要望、処遇に関する要望を聞く機会も設けている。また日常的に意見や提案をしやすい環境になっている。	毎月の職員会議の他、毎日の業務時間においても管理者へ意見を述べる機会を持つ。職員からの意見は必要に応じ毎月の法人内リーダー会議等で報告され、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状の把握は管理者を通じて行っており、給与水準の見直しを図っている。研修案内はすべて閲覧できるようにし、資格や研修にも交通費や参加費等を考慮したり、積極的に取り組む環境を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の必要とする研修はできるだけ全員が受講できるように時間の設定に配慮し、職員の力量に見合った内容の研修を行うように考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為交流の機会がなかった。地域密着部会においてはアンケート等書面での情報交換は行った。		

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を考慮し、性格や不安に思っていることを把握し、本人のペースで安心して共同生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して頂けるようご家族の不安や要望を聞き、気軽に話せるような環境を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	そのような支援が必要な方にはニーズを見極め、適切な対応ができるよう努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは行ってもらい、出来ない部分は支援をしている。積極的にお手伝いをされる方には、その思いを大切にし対応している。活動の中で経験や昔の知恵等教えてもらいながら一緒に行うようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度より毎月お手紙にて状況を報告、普段の生活や活動の写真を添えている。コロナ禍でリモート面会を実施し、利用されるご家族には状況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限があり、外部の方との交流は難しいが、施設内での交流は継続できるよう努めている。	入居者は入居前には町の住民であったこともあり、開設以来、隣接の特養やデイサービスの利用者との相互訪問で馴染みの関係を継続してきた。今年度は感染症予防の面から交流が縮小されたが、出来る範囲での交流を継続した。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を観察し、必要時には職員が間に入り対応している。関係性に合わせた席の配置、少人数と全体でコミュニケーションが図れるよう努めている。居室で会話される関係になっている方もいる。		

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内の特別養護老人ホームへ移行した場合、一緒に活動したり、顔を見に行ったりと関係性を保つようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの話をよく聴き、また表情や行動をよく観察しながら希望や意向の把握に努めている。	現状、意向を表すことが出来る入居者も多く、入居者との関わりの時間も大切にしている。日中、個人的な話題が出る時には、入居者と居室で話す機会を持つ等配慮も行っており、それぞれの生活を大切にしながら暮らしが営まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から情報を得て、これまでの暮らしぶりの把握に努めている。また日頃の会話の中から情報を得られるよう注意しながら対応をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の生活の観察とバイタル測定を行い記録に残し現状を把握している。心身の状態、有する能力の状態によって柔軟に対応出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットミーティングでの意見、状態によって随時意見を出しよりよいケアを提供できるよう努めている。認知機能面も含め課題や意見を取り入れケアプランを作成している。	日々の申し送りに加え、毎月の会議時には入居者一人ひとりの生活について意見を出し合い、課題・検討事項を共有している。半年毎の介護計画見直しの際には計画作成担当者より家族へも意見を求め、入居者の現状に沿った介護計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化、気づきを記録や申し送りノートに残し、情報を共有して日々のケアに活かすよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望、ご家族の意向を確認しながら、その時に生じるニーズに対応できるようにしている。		

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加を通して交流を図っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為の行事の中止により実践できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に1回の協力病院による訪問診療、訪問歯科により連携を図り、必要に応じて関係医療機関への受診も行っている。ご家族の希望により入居前のかかりつけ医を継続している方もいる。	入居前からのかかりつけ医の受診を支援している。協力医からは毎月訪問診療が行われており、他科受診が必要な場合は紹介を頂いている。通院が必要な際には、基本的に家族による介助を依頼しており、職員が同行する場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はないが、施設内の看護師へ相談できる環境を整えている。状態に変化があった場合は協力病院へ連絡し指示を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携している病院とは6ヶ月に1回会議を実施し、情報交換や相談を行い関係性を築いている。入院先の医療機関とは情報交換を行い共有するよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時リビングウィルの確認を行っている。重度化した場合は主治医も含めて話し合い、法人内の特別養護老人ホームへの案内も行っている。	法人の看取り委員会での議事録は職員で共有しており、今年の職員会議では看取り期マニュアルについての議題で学ぶ機会を持った。開設まもなく未だ事業所での看取りの経験は無く、入居者のその時の生活の最善を考え、状態に応じてた住み替えも支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修にて定期的に救急救命の講習を行い、緊急時対応マニュアルを作成し備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施している(日中・夜間想定、火災・地震災害想定)。今年度7月豪雨を経験し大きな被害はなかったが、課題が見つかり改善した。	年2回の消防訓練後は反省会を行い、次回に向け夜間想定訓練時間を検討する等、課題の共有を行っている。今年の豪雨後には、外部からの手伝いを想定し居室入口に椅子マークを掲示することとした。法人では防災対策委員会を実施しており、台風対策の話し合いに伴い自家発電機の操作説明・手順の見直しを行った。	

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	羞恥心に配慮しプライドを傷つけないような声かけや対応を心がけている。自分達の声かけや対応により他の入居者様への態度まで変えてしまう事も考慮し気を付けている。	日々の入居者との関わりの中での職員対応に配慮している。職員からの声掛け・対応は入居者同士の関係性にも影響が及ぶことを念頭にケアにあたっており、毎月の会議でも話題を持っている。希望による入浴時の同性介助にも対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが思いや希望を言えるような環境作りを行い、実現を図っている。自己決定が出来るような声かけ、待つケアに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り一人ひとりの意向に沿って、その人のペースに合った暮らしができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容、馴染みの美容室の利用を継続している。装飾品や化粧品など好みに合わせた身だしなみができるようご家族に協力してもらいながら支援している。自分で服を選んで着用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、後片付けのできる所は行ってもらっている。炊飯や盛り付けの実現に向けてレクリエーションとして食材の下ごしらえや炊飯、盛り付けを取り入れているが、工夫が必要で検討中である。	施設内で調理された食事を事業所で配膳している。3ヶ月毎の給食会議に加え毎年嗜好調査を行っており、日々の入居者の様子は管理者を通じて要望を伝えている。時には弁当を外で楽しんだり、昼食・おやつ・夕食の手作り等工夫もある。	レクリエーションとしての活動に食事作りを取入れる等、工夫を窺う事が出来ました。食事全体を通して、入居者の皆さんの関わりが日々の生活の中で生まれるような取組みに期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて対応している。食事量、水分量は記録に残し観察している。必要に応じて医師、栄養士と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけ、見守りを行い、必要時は介助している。月に1回の訪問歯科を利用して頂き、口腔内の状態を把握しアドバイスをもらいながら口腔内の清潔に努めている。		

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている方が多い為その能力が維持できるよう支援している。ポータブルトイレ、パットの使用は状態をみながら対応している。排泄の失敗があった時は自尊心を傷つけないよう対応し、すぐにパットの使用に結びつけないようにしている。	現状、自立されている入居者が多い状態である。昼・夜とも出来るだけトイレでの排泄を支援しており、状況に応じてパットや夜間のポータブルトイレ使用等、個々に検討し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日チェックを行い、水分の摂取や適度な運動を心がけている。必要に応じて医師に相談しコントロールできるよう下剤を処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日を決めて本人が入浴日と認識できるようにしている。体調や希望によって時間、曜日を変更し対応している。自分でできる所は行ってもらい、その能力が維持できるよう支援している。	週2～3回、午後を基本としている。入居者それぞれの状況により過度な介護は行わず、出来るだけ入居者自身の力を大切にしたケアを行っている。現在、希望による同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はできるだけ活動を取り入れ夜間の安眠に繋がるよう支援している。体調に合わせて昼間の休息を取ってもらっている。使い慣れた寝具を使用して頂いたり、室温は一人ひとりに合わせ環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名カードをファイルし内容、副作用等すぐに確認できるようにしている。誤読のないよう日付、名前の確認を行い一人ひとりに合った服薬支援を行っている。薬の変更があった場合は様子観察を行い、記録に残し情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きなことや希望することができるよう支援している。喜びを感じて頂くことのできる役割を取り入れるようにしている。季節の行事や特別養護老人ホームとの合同レクリエーションなど楽しみを持って生活できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為外出支援はほとんど実践できていない。馴染みの美容室へは感染状況をみながら行ってもらった。天気が良い時は施設周辺の散歩に出かけている。施設内に金毘羅様を設置し、外出制限による不自由な思いを軽減できるよう工夫している。	今年度は感染症予防の面から家族との外出や日々の外出も難しい状況であったが、敷地内の散歩やプランターでの野菜作り等、日常生活の中で外気を感じる機会を持った。現在バルコニーを建設中であり、完成が待たれるところである。	

グループホームりんごの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止の為訪問販売の中止、外出制限もありお金を使う機会が減った為、8月より施設内で商店を開店し菓子やパン等購入できるようになり全員が利用し楽しみにされている。今まで買い物をされなかった方も利用されるようになった。お小遣いは家族に依頼し協力して頂いている。ゲームの景品に商品券を発行し違った形でのお金の使用も取り入れた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には自由に電話ができるよう支援している。頼まれた時には手紙を投函するなどの支援もしている。全員ではないが年賀状を出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁の掲示物を毎月変え、できるだけテーブルには花を飾り季節感のある生活を送って頂くようにしている。室温にも注意し、清潔に保つよう努めている。十分な動線を確保し安全で居心地のよい空間作りを行っている。	共用空間は車椅子での走行もゆったり出来るほどの広さがあり、手摺りも完備され、整理整頓・安全にも配慮している。廊下にはソファもあり、入居者が思い思いに過ごす姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性を考慮してテーブル席の配置をしている。ソファを2カ所配置し、くつろいだり休憩できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真を持ち込んで頂いたり、ご自分で作品や好きな物を飾られ個性が生き生きと居心地よく生活できるようにしている。必要な物があればご家族に協力して頂いている。ご自分で掃除をしたり、一緒に行うことでより快適に過ごせるよう支援している。	居室にはベッド・タンスが備え付けられ、洗面台完備の部屋もある。生活用品からは家族の関わりも見られ、好みのポスター掲示や、趣味の編み物・書き物と、入居者の生活の様子を感じることができる。入居者が居室の掃除をする姿もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は自由に行き来できるよう動線を確保し、安全に過ごせるよう環境作りを行っている。居室の入り口には表札を掲げ、ご本人、他者からもわかるようにしている。リビング内でのシルバーカーや車椅子の置き場には気を付けている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームりんごの里

作成日 令和3年 4月 5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		コロナ禍で家族から意見を 得る機会が少ない為、 工夫を行う。	意見を 得る機会を増やす	・ケアプラン更新時に意見 や要望を聞く。 ・電話連絡をした際に聞く。	随時
2		食事全体を通して入居者 様の関わりが日々の生活 の中で生まれるような取 り組みを行う必要がある。	食事に関する家事活動を 増やしていく。	炊飯を行う。	6ヶ月
3		野菜作り等日常生活にお いての楽しみを増やす工 夫をする。	実のなる物を育て食事へ の関わりにも繋げてい く。	個々が楽しみを持てるよ うな野菜作りを行う。	2ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。